目黒稲門会会報

（題字：眞仁田　勉　初代会長）

第２８号　2005年9月　発行人：加藤　栄護　編集長：外岡　明　事務局長：吉田　博行

事務局：〒153-0053　目黒区五本木2-47-5　Tel 03-3713-2096

第６回 定時総会開催

２００５年７月９日（土）こまばエミナースにおいて目黒稲門会第６回定時総会が開催されました。

先づ、前年度中に他界されました会員のご逝去を悼み、黙祷を捧げました。

次いで、加藤会長の開会の挨拶があり、もっと多くの会員の方々にこの総会や、活発に活動する各分科会に積極的な参加を願ってやまない旨の話がありました。続いて、早大江夏副総長より、母校の現状と時代を先取りする諸施策の紹介を頂き、また近隣稲門会のご来賓を代表して大田稲門会松本会長より祝辞を頂戴しました。

引続き、司会の石川幹事より横山副会長に本総会の議長就任を依頼、了承を得て横山議長は次の１～５号議案を順次付議し異議なく採決されました。

１号：平成16年度事業報告。２号：第６期決算並びに監査報告。３号：平成17年度新役員。４号：平成17年度事業計画。５号：第７期予算。

総会終了後直ちに隣室に移り恒例の懇親会が開催されました。引続き石川幹事司会で先ず大野副会長の開会挨拶、井村副会長の音頭による乾杯の後、懇親会にかけつけて頂いた青木目黒区長のご挨拶に続いて、早大創立125周年事業局広瀬課長より、記念事業及び募金の現況説明と協力要請がありました。また大竹幹事より本年度稲門祭での福引券販売への協力依頼があり、早速10数名の申込がありました。

懇親会は、「デキシーフレンズ」による軽快なジャズ演奏を聞きながら大いに盛り上がりました。途中で、つい先日の都議選で目黒区トップ当選を果たした伊藤　悠会員と衆議院議員手塚仁雄会員もかけつけ挨拶を頂きました。初参加会員及びご夫妻で参加８組の方々の紹介もあり、和気藹々の時間は瞬く間に過ぎてしまいました。最後に伏見会員のリードで肩を組み、デキシーフレンズの演奏に合わせて「都の西北」を斉唱し、渡辺副会長の名残りを惜しむ閉会の挨拶をもって散会となりました。

会員の消息

○新入会員

芦澤哲男　昭和28年　法　水泳　ゴルフ
下村尚久　昭和35年　理工　ゴルフ
田畑　繁　昭和30年　法　ダンス・カラオケ

○訃報

今里純一郎氏（昭和26年 文）平成16年9月21日永眠
鈴木正明氏（昭和35年 政経）平成17年4月14日永眠
中沢信平氏（昭和27年 政経）平成16年11月11日永眠
中島勝也氏（理工学部教授）平成17年3月2日永眠

出席者名簿（敬称略）

（来賓）
早稲田大学副総長　江夏健一
早稲田大学創立125周年記念事業募金局
課長　広瀬　剛
港稲門会会長　安藤恵美子
大田稲門会会長　松本常男
世田谷稲門会常任理事　麻生卓司
品川稲門会幹事長　塚田成四郎
目黒区長　青木英二
（会員）（五十音順）

浅見敏之	芦澤哲男	阿部喜久雄	阿部令夫人
荒瀬修一郎	有山勇次郎	安藤虎雄	石川智子
市瀬一江	伊藤源喜	伊藤　悠	井村正陽
岩崎正夫	海口昭治	大竹一子	大野利幸
大野令夫人	大山高明	岡田鐘吾	小川裕正
小野　満	海沼美智子	加藤栄護	加藤令夫人
岸　猛弘	紀本直幸	桑野裕光	島田久家
田島順一郎	田島令夫人	田畑　繁	千野逸平
土川俊雄	手塚仁雄	外岡　明	外岡令夫人
永井純一郎	服部尚彦	林田雅敏	林田令夫人
原田貞子	樋口定廣	藤岡長世	伏見和則
堀井良造	眞仁田　勉	眞仁田令夫人	松岡雅俊
水野弘文	保井　正	山口一男	横山　大
吉田博行	渡辺三郎	渡辺令夫人	渡辺明久

新役員一覧（五十音順）

○顧問
小山宙丸　星野聡史
○相談役
阿部喜久雄　荒瀬修一郎　桜井輝隆　佐藤嘉剛
品田一良　樋口定廣　藤岡長世（新任）
眞仁田　勉　松戸　猛
○会長
加藤栄護
○副会長
市瀬達夫　井村正陽　大野利幸　大山高明
海沼美智子　都築秀行　保井　正（新任）
八幡和三郎　横山　大　渡辺三郎
○幹事
浅海敏之（幹事長）　土川俊雄（副幹事長）
安藤虎雄　石川智子（新任）
市瀬一江　伊藤源喜　岩崎正夫　海口昭治
榎本茂　大竹一子　岡田鐘吾　小川裕正
小野　満（新任）　岸　猛弘　紀本直幸
（新任）　桑野裕光　郡山　弘文　小林一光
島田久家　田島順一郎　田　哲基　外岡　明
永井純一郎　中上美代子　中西千可子　服部尚彦
（新任）　松岡雅俊　松原進一　森家一三
山口一男　吉田博行（事務局長）
○監事
林田雅敏　土方正巳

目黒稲門会第6期　決算報告書

（平成16年4月1日～平成17年3月31日）（単位＝円）

	科目	決算	予算	備考
収入	前期繰越金	816,223	816,223	
	年会費	670,000	700,000	5,000×134名=670,000
	総会収入	610,000	700,000	10,000×57名=570,000 5,000×8名=40,000
	新年会収入	550,000	600,000	10,000×51名=510,000 5,000×8名=40,000
	早大校友会	183,000	184,000	組織強化補助金
	雑収入	635	—	東京三菱銀行利息他
	合計	2,829,858	3,000,223	
支出	総会費	599,262	700,000	
	新年会費	450,568	600,000	
	部会運営費	90,000	80,000	ゴルフ、囲碁、カラオケ、麻雀、ダンス、美術、旅行、グルメ、ホームページ
	会議費	18,800	30,000	幹事会等会議室使用料
	交際費	272,580	250,000	東京23区幹事会及び他稲門会
	雑費	69,963	50,000	振込手数料他
	交通費	4,260	—	
	通信費	71,265	130,000	
	事務用品費	34,740	100,000	封筒印刷代他
	ホームページ	84,914	100,000	ホームページ立ち上げサポート料 ニフティ月額使用料
	寄付金	500,000	500,000	125周年記念基金
	会報	300,900	300,000	会報印刷代
	次期繰越金	332,606	160,223	
	合計	2,829,858	3,000,223	

注1.　年会費内訳　合計 670,000円
15年度分：9名　45,000円
16年度：121名　605,000円
17年度：　4名　20,000円
注2.　次期繰越金内訳　合計332,606円
東京三菱銀行中目黒支店63,413円、
東京三菱銀行学芸大学駅前支店　122,253円、
郵便貯金146,940円

監査報告書

私たち会計監事は、平成16年4月1日から平成17年3月31日までの第6期会計年度の会計報告を監査いたしました結果、適正かつ正確であることを認めます。

平成17年5月18日
目黒稲門会　会計監事　土方正巳　印
会計監事　林田雅敏　印

目黒稲門会第7期　予算

（平成17年4月1日～平成18年3月31日）（単位＝円）

収入

科目	金額	備考
前期繰越金	332,606	
年会費	700,000	5,000×140名
総会収入	480,000	8,000×60名
新年会収入	480,000	8,000×60名
早大校友会	180,000	組織強化補助金
合計	2,172,606	

支出

総会費	480,000	
新年会費	480,000	
部会運営費	70,000	ゴルフ、カラオケ、囲碁、麻雀、美術、旅行、グルメ
会議費	20,000	
交際費	250,000	
雑費	60,000	
交通費	5,000	
通信費	100,000	
事務用品費	50,000	
ホームページ	70,000	2,519円×12=30,228円　HP掲示板2,940円
会報	400,000	
次期繰越金	187,606	
合計	2,172,606	

2005稲門祭のお知らせ

2005年10月23日（日）12時～15時30分
東京都23区支部は大隈庭園で“園遊会”を開催します。ご家族ご友人とぜひ庭園にお立寄り下さい。応援部の大校旗の下に「都の西北」を斉唱致します。

＜出店＞全国銘酒試飲会、江戸前寿司、おでん等
＜イベント＞応援部チアリーダーパレード、ジャズ演奏
――― その他楽しい企画が盛り沢山！―――

※自転車、海外旅行等が当たる稲門祭福引券も発売中。1枚2,000円→目黒稲門会事務局まで

ユース23の活動について

幹事　石川智子

いつも若手メンバーを可愛がってくださり、この場を借りてまずはお礼を申し上げます。

先輩の築いて下さった良き伝統のもと、私たちも伸び伸びと育ってお応えしたいものです。

若手だけで閉じこもるのではなく、世代間の出会いや刺激の中で学び、楽しみ、自分達の成長の糧としつつ、「新しい何か」を創っていけたらと思います。若手の新メンバーが来やすいよう、若手世代同士で語り合う場も少しずつ用意していきます。

ＨＰ便り その４　広報HP担当 中西千可子

今回は『全体活動予定』の部分についてご説明させてください。ここは文字通り、目黒稲門会の活動と大学校友会･東京２３区支部の活動予定を掲載してあります。下線のある文字の部分にマウスをあわせてクリックしていただけると、関連するページに飛んでより詳しい情報が得られます。

また、ページ左上にある『全体活動blog』をクリックすると、これからの予定と報告が確認できます。そのすぐ下の『部会サークル活動日程』では各部会の活動予定が一覧できますのでご参考になさってください。

早慶の違い　会長logbook

会長　加藤榮護

これは、小生が富士通時代の体験である。
慶応の湘南キャンパスができて、そのオープニングの式典が開かれた。このとき、富士通もこのキャンパスの構築に情報システムの構築や、学生、研究室の設備などでお世話になっていた。

小生は当時、富士通の国内営業部門の担当役員としてご招待を受けた。立派な講堂で式典は始まった。式典の壇上に座ったのは、当時の慶応義塾の石川塾長、早稲田大学の小山宙丸総長、それに神奈川県の長洲知事の三人だけだった。

普通このような式典には、文部省の役人を来賓に仰ぎ、祝辞が述べられる場合が多い。ところが、この式典では前記三名のみであったのに先ずびっくりして嬉しくなった。そして、この御三方の祝辞がユーモア溢れるものであった。

出席者一同は、私学の雄としての早慶の門に学んだ喜びを感じたと思う。

特に、小山宙丸総長の話は「早稲田と慶応の違い」について訥々とした話し振りと共に出席者一同に感動を与えたと思うので、その内容を此処に紹介しておきたい。もう大分以前のことなので、不確かな部分があることはご勘弁願うとして、、、

早稲田と慶応は色んな面で違いがある。色んな運動部の名称も違う。あるとき、全日本の競艇に慶応が優勝して、その祝賀会に小山総長が招待された。

当然、予選の段階で早稲田は慶応に敗れて、悔しい想いで総長は出席したが、その祝賀会での多くの人の挨拶の中で、慶応の出身者からは一人も早稲田を破ってという言葉が出なかった。

自分は聞き違えでは無いか？とその時の録音テープを取り寄せて、後日聴いてみたがやはり、早稲田を破りという言葉は発見できなかった。そして、慶応はさすがに紳士の大学だと敬意を抱いた。

これが逆の場合だったら、どうだっただろう。

早稲田マンは必ず慶応を破りと言うだろう。私は今、このことを思い、これまでの早稲田が犯してきた非礼とこれからも犯すであろう早稲田の習慣に対して、前もってお詫びをしておきたい。
というものであった。

お詫び
連載中の「空往満帰」は都合により休載します。

リレー随筆

新人時代の思い出

副幹事長　土川俊雄（昭和41年政経）

前号の井村副会長と同じく私も昭和37年水泳部に入部、41年卒業までの4年間を稲泳寮（早大水泳部合宿所）で過ごしました。4年間の学生、水泳部時代を通じ一番思い出の深い一年生の時の事を少し記してみたいと思う次第です。確か昭和37年3月29日のことだったと思いますが山梨の家に一通の電報が水泳部より届きました。入学式の前々日3月30日に東伏見の寮に集合との知らせでした。同期生11人意気揚々と集まった迄は良かったのです。その時3年生一同より声があり新入生全員プールサイドに集まれとのことでした。当日は寒い日で雪が舞っておりました。雪にぬれない飛び込み台の下のザラザラしたプールサイドに全員正座目を閉じるよう命じられました。次の瞬間突然それ迄のお客さん扱いから一転し新入生全員に『只今よりお前たちは新人と呼ばれる』『3年生全員が新人係である』『新人全員坊主刈りにする』『寮の廊下であれプールサイドであれ大学構内であれ一日何回会っても2年生以上の上級生に対しコンニチワと大声で挨拶する』『学年の差は一年違えば月とスッポン2年違えば天と地、3年違えばその差測り知れず』等の事を1時間余りにわたり言い渡されました。始めて聞くことばかりでした。因みに私の同期は11名ですが私を除いて競泳7名水球3名全員が39年開催の東京オリンピックに備える候補選手として認定されておりました。全員足は痺れ油汗が出た頃を見計らって新人係長が「全員水着に着かえろ」そしてあろうことか「良しという迄泳げ」との厳命でした。雪の舞う中1時間程泳いだ後2年生の沸かしてくれた砂糖水を飲んだ時には何か生き返った感じがした事を今でも思い出します。まるで地獄に突き落とされた様な感じに全員夜逃げも考えましたが諸々の期待を背に入部した事を考え何とか頑張ろうと誓い合い寝床につきました。新人生活の始まりです。翌日からは5時起床諸々の準備をし7時全員起床の掛声、先輩のフトンの上げ下げ、食事の盛り付け、寮内外の清掃等毎日目の回る様な忙しさでした。その間無我夢中で疲れを感じる余裕などなかったと思います。寮にいる時は緊張の連続ですので授業で学校に行く時が唯一の息抜きの一時でした。

新人生活にも馴れ早慶水上が終わる頃から週一ペースで新人集合というのが始まります。これはザラザラのプールサイドに正座瞑目して1時間～2時間新人係の訓話（？）を聞く行事（？）です。大変つらかったのですが今は懐かしい思い出です。

次号は前事務局長の岩崎正夫氏にリレーしたいと思います。

各部会からの報告

囲碁部会

部会長　保井　正

定例囲碁部会　　9月2日（月）　10月7日（月）
稲穂会囲碁大会（個人戦）　11月13日（日）
早大新学生会館

第5回オール早稲田→囲碁祭無差別クラスで第2位を奪取。5人1組46チームを勝ち上り頂点までもう一歩の快挙。

←同囲碁祭Cクラス第4位となり、早大囲碁部主将笹子理紗さん（教育2年）を囲んで。
平成17年5月22日
日本棋院市谷本院にて

ゴルフ部会

部会長　大野利幸

第16回ゴルフ会は、心配した雨も、スタートからホールアウトまで降らずに、無事終了することが出来ました。結果は、優勝は服部尚彦氏、準優勝は保井栄子さん、3位は浅海敏之氏でした。

コンペパーティも和気藹々のうちに終了し、記念写真撮影後バスに乗車し帰路につきました。車中でのビール、ワインでの2次会？も楽しく、目黒まで帰って来ました。

参加者：
服部尚彦、保井栄子、浅海敏之、千野逸平、大野利幸、保井正、村上明子、下村尚久、三部由夏子、外岡明、五味正範、市瀬達夫、本田道治、手塚麻理子、大野幸子、岩佐好恭、島田久家、村上満、吉田博行、加藤栄護、須佐井元道（以上21名）

次回予定　10月28日　美浦ゴルフクラブ（霞ヶ浦南岸）

美術・歴史鑑賞部会

部会長　八幡和三郎

7月2日（土）に、16名が参加して静嘉堂文庫美術館で開催中の「京のやきもの―仁清・乾山・楽代々―」展を鑑賞しました。

先ず81点の京焼の逸品を鑑賞し、引き続き荒川正明氏の講演を聞きました。多数のスライドを使った解説は、京焼に関する蘊蓄を一段と深めてくれる内容でした。荒川氏によれば、京焼は賀茂祭や宮詣など「ハレ」の場を支える「造り物」として歴史を刻み、町衆文化の中で「当世流行る伊達道具」として、競って求められたとのことです。展示品の中には、仁清の傑作、「色絵法螺貝香炉」や「色絵吉野山図茶壷」（共に重要文化財）も展示されていましたが、圧巻は初展示の「白鷺香炉」です。左の写真で、その素晴しさを鑑賞してください。

帰路、安部幾雄さんが『焼あがって初めて出来ばえが分かる「やきもの」の世界で、あれほどの芸術性を実現した仁清は、測り知れない才能の持ち主だった』と語っていました。私も同感です。

次回は、9月16日（金）に「ドレスデン国立美術館展」を訪れます。皆様ぜひご参加ください。

カラオケ部会

部会長　海口昭治

「戦争と共に歩んだ青春」懐かしの松竹すれ違い映画主題曲・歌のない歌謡曲・軍国歌謡曲・軍歌及び童謡・小学校唱歌など思い出をのせて、一刻の青春に戻って楽しんで歌って居ります。

終戦時闇市時代の暗い歌から明るい希望のリンゴの歌、高度成長～バブル期～バブル崩壊へと「歌は世につれ世は歌につれ」と謂われますが、若い方の多岐多様に曲を器用に唄いあげてゆくのには吃驚、音感の良さが伺い知れます。記憶力の違いか？

カラオケ当日は歌い、語り合い、飲食を共にし乍ら洋の東西・古今を問わず、愛唱歌を披露して楽しんで居ります。御都合に合わせてご参加下さい。

旅行部会

部会長　井村正陽

旅行部会は年2回の1泊旅行の実施を基本としての活動を進めております。

今年度第一回目は「愛知万博の旅」を6月16日の一泊2日で実施しました。梅雨の合間の好天（参加者の精進の結果）に恵まれての旅行となりました。万博見学の16日は平日とあり入場者数が少ない日ではありましたが、並ぶことには慣れて全員「気」が長くなったことを実感した旅となりました。

第二回目は11月もしくは12月に近か場での旅行を予定しますので、乞う御期待！

麻雀部会

部会長　土方正巳

麻雀部会は、目黒稲門会の創立から半年後の平成11年6月20日に第1回麻雀大会を開催しております。以後、年4回のペースで会を重ね、本年の5月15日に第23回麻雀大会を終えたところです。この間、毎年12月には大会終了後、地元居酒屋で忘年会を催し、この1年間を振り返りながら懇親を深めております。部員の構成をみると、発足当時は目黒稲門会々員が17名、会員の友人・知人が11名で、大会参加者16名を選ぶのに余裕があったといえます。しかしながら、その後部員に出入りがあり、現在の登録部員は17名と減少し、16名を揃えるのに大変苦労しているのが現状です。少しでも麻雀に興味のある方の入会を歓迎いたします。

次に、渋谷・世田谷・目黒3区連合親睦麻雀大会について紹介します。近隣の稲門会相互の親睦を図るため、各部会長が協議し、年3回、各区持ち回りで行うことを決めました。第1回大会は、平成12年1月23日、32名の参加により盛大に行いました。以後、回を重ね、本年4月23日、第11回大会を行いました。ゲームを通じ、他区に親しい友人ができるのもまた楽しいもので、これからも3区連合による大会を皆さんの協力を得て成功させたいと願っております。

部会案内一覧

詳細は本誌の各部会報告をご覧いただき、興味をお持ちの部会にお気軽にご連絡下さい　05年7月現在

部会名	部会長 担当幹事	連絡先 電話/Fax	参加人数	当日会費 (年会費ナシ)	活動概要
囲碁	保井　正	[redacted]	10数名	500円	毎月1回（下目黒住区センター）
カラオケ	海口昭治	[redacted]	10数名	3,000円 女性1,000円	毎月　第二金曜 午後4～7時（学芸大学コートダジュール）
グルメ	海沼美智子	[redacted]	20～30名	6,000円～ 10,000円	年3回程度リーズナブルな金額と雰囲気・味の良い店を厳選
ゴルフ	大野利幸	[redacted]	20～30名	2～30,000円	年2回　春秋、別途 秋に総長杯
ダンス	小川裕正	[redacted]		3,000円	目下休会中
麻雀	土方正巳	[redacted]	10数名	3,000円	年4回　西小山クラブ　他区稲門会との連合親睦大会（3回）
美術・歴史鑑賞	八幡和三郎	[redacted]	10数名	その都度	年数回
旅行	井村正陽	[redacted]	10～20名	その都度	年2回　春秋
ユース23	石川智子	[redacted]	数名	5,000円	年数回　土曜夜　若手・準若手
三土会	土川俊雄	[redacted]	10～15名	5,000円	毎月　第三土曜午後6～9時
広報HP	中西千可子	eメール URL	meguro-tomonkai@nifty.com http://homepage3.nifty.com/me96tomon-waseda/		

編集後記

編集委員が交代しました

０５年７月総会にて、先輩の藤岡長世編集長（S22法）から私（外岡）がバトンを受けてその任を継ぐことになりました。

決して若返り人事とは云えませんが、再任の方も含め、更に若い方々の力も借りてスタートしました。

まだ現役で多忙な人々の集まりですが、互いに知恵を出し合って、会員の皆様の役に立ち、喜ばれ、そしてまた読みたくなる様な会報を作って行きたいと考えております。

今後とも会員諸兄の暖かいご支援とご叱正を、そして数々のご寄稿を下さいます様お願い申し上げます。

○新しい編集メンバーをご紹介します。

編集長：外岡明　(S 26 理工)
副編集長：島田久家　幹事　(S 27 商)
会計：森家一三　幹事　(S 35 文)
書記：田島順一郎　幹事　(S 49 政経)
編集委員：保井　正　副会長　(S 34 政経)
服部尚彦　幹事　(S 35 理工)
土川俊雄　副幹事長　(S 41 政経)
吉田博行　事務局長　(S 42 政経)
中上美代子　幹事　(S 61 文)

以上才色兼備（？）の集団です。
どうぞ宜しくお願いします。

「会報」を衣替えしました

お気付きになったでしょうか？
今回の編集委員会の新編成を機に、今号から会報の装いを新たにしました。

先ず、表題の「目黒稲門会会報」の題字を、当会初代会長である眞仁田　勉氏に揮毫して頂きました。

そして表題部分のデザインを変えました。

次は従来の「会報」と「Express」の二本立てをやめ、「会報」のみとし、年4回発行することとしました。Expressは、当初会報の補助機能として、部会活動や行事案内などの速報を主として来ましたが、今では内容も充実し、会報と区別する必要がなくなったと判断したからです。

三つ目に、発行号数（連番）ですが、従来会報は年1回発行で第8号まで、そしてExpressは年3回発行で第19号まで出版しました。

そこで両号を合算して、今号を［目黒稲門会会報第28号］としました。

「Express」の号数を含まず「会報第9号」とすることも考えましたが、19回発行した実績は捨てがたく、当初から苦労された編集委員の努力と当会の草創期の歴史でもありますので、「Express」の発行数も加算することとした次第です。

（外岡　記）